

2023年9月23日

「気候市民会議つくば 2023 アイデア募集(2)」結果の概要

気候市民会議つくば実行委員会

気候市民会議第1回目(2023年9月3日)の後、つくば市内に在住・在勤・在学の方を対象に、「ゼロカーボンで住みよいつくば市」を実現するためのアイデアを広く募集しました。9月21日のべ切までに24件が集まりました。ありがとうございます。いただいたアイデア等は、これまで実施した「アイデア募集」とあわせて、第2回以降の市民会議の資料等として活用します。

以下に、ポイントを示します。表現されていないアイデア等もございますが、御了承ください。

- 1) 「ゼロカーボンで住みよいつくば市」は、どのような姿だと思えますか。また、実現するために、どのような取り組みが市民（地域、事業者）に必要と思えますか。（6件）
 - 地球、日本、つくばで起こりうる気候変動の悪影響を広報・啓発する。悪影響の回避・軽減が、ゼロカーボンへのモチベーションとなりうる。
 - 商業施設やスーパーやTXなど、設定温度が適切か見直す
 - 環境や気象、技術の研究所が脱炭素化をリードし、事業者にノウハウを共有する
 - 使い捨てプラスチックを増やさない。スーパーなどの事業者と消費者が選択
 - 中心地は車によらない街づくりをする。シェアリング、ライドシェア、パーソナルモビリティ、遠隔、自動運転など。

- 2) 「ゼロカーボンで住みよいつくば市」を実現するために、どのような政策がつくば市に必要と思えますか。（15件）
 - つくば市役所が率先し、人が来るイベント等でも脱炭素の取り組みを実施・アピールする。経済、福祉、教育、スポーツなど市役所全体で脱炭素に取り組む。
 - 焼却場や家庭でのCO2排出量を市民に見える化し意識を喚起する
 - ゴミの分別のしかたをSNSなどでこまめに伝える
 - 太陽光発電を推し進める。公共施設や大規模施設は必須。アパートや個人住宅についても基本的に義務化する。駐車場にもパネル付き屋根の設置を義務付ける。
 - 風力発電について、臨海あるいは霞ヶ浦を囲む自治体への協力を含めて推し進める
 - 森林での二酸化炭素吸収と固定
 - 環境教育の充実。学校教育で年間に10時間程度は使い、家庭での話し合いにもつなげる学習教材に。公開講座や展示の充実
 - 路面電車を作り、教育機関、公園、商業施設などをつなげ、市民が移動しやすくする。交

通渋滞も緩和する

- 高齢者が無理に運転を続けなくて済む
- 屋外で気持ちよく過ごせるまち。ペデ上のベンチをきれいに管理する
- 公務員宿舎跡地の開発に対して樹木の伐採制限や緑化率の引き上げ、市の指導権限強化などの法整備
- 自転車・公共交通機関を使いやすくするために、バス停に駐輪場や『つくちやり』ステーションをつくる
- 安全・安心に通れる道路とする。主要道と地区主要道は、拡幅して自転車やバスの空間を広くする。自転車の通行が可能な歩道を増やす。自転車が歩道を通る場合のマナーを記した看板を掲示する。その他の道は、車両を「一方通行」にして歩行者や自転車の空間を広くする（隣り合う2本の道路が、交互に逆方向の一方通行になる）

3) その他のアイデア（3件）

- イベントではリユース食器を必ず利用しゴミの削減をする。事業者支援にもなる
- 林業の管理に役立つロボット技術の開発と導入。植物による二酸化炭素の吸収と固定の能力が高い植物の研究開発

以上